

中学校第2学年 国語科学習指導案

単元名 わくわくするか拡大版

教材名 A 「いつもの時間に、いつもの声を」(西日本新聞/R2.5.20 朝刊 17面「エンタメ」欄より)
B 「小さな街のラジオ発 — 臨時災害放送局『りんごラジオ』」(ノンフィクション/光村図書2年)

1 単元について

(1) 生徒観

短い文章を日常的に読み慣れるとともに、あえて言葉に立ち止まり思考することの実現を目指し、週末課題「わくわくするか・ふさわしいか」プリントを本学年の生徒に課している。実践例を後掲しているが、実際には次の流れであり「イ 全文」としては、主に新聞や雑誌の記事を採っている。

ア お題(文章中の一文やタイトル)のみから、「わくわくするか」欄を書く。
→ イ 全文を読む。
→ ウ お題は全文の中にあって効果的か。「ふさわしいか」欄を書き、提出。
→ エ 二色の線引による評価を知る。

アを週末の授業
終末で。
イウを週末課題
か週明け導入で。

卒業生がのこした成果の例示などにより、本学年の生徒もねらいに迫る取り組みぶりを見せている。日常の授業では積極的な発言など見られないが、この週末課題ではウェブログに見られるような自由闊達な記述をし、書くことで分かる思索の深さ、表現の巧さ・独特な表現に驚かされる生徒もいる。こういった好例が、対話活動を組み入れる今回の拡大版授業で生きるよう導きたい。

(2) 教材について

教材Aが今回のお題。緊急事態宣言後のコロナ禍に、ラジオの魅力を伝える記事中の表現である。最初に提示し「わくわくするか」の仕掛けで、直感や想像力、自らの経験に引き寄せたこと等いわゆる感性の面(以下、感性的思考と呼ぶ)にはたらきかける。教材Bは、東日本大震災の後日を巡るノンフィクション。被災者の心情を汲み取り見守り、支えようとする臨時災害ラジオ局のアナウンサーが綴る文章である。

教材Aを含む記事全文や教材Bを読み、「いつもの時間に、いつもの声を」はラジオの魅力を伝えるのに「ふさわしいか」。AB双方からの根拠を伴った、論理的な思考・判断・表現を求める。

(3) 指導観

「ふさわしいか」を、本単元では学習の振り返りの一項目に代替する。

通常、単元の振り返りには「学びのプラン」プリントを使用している。こちらも後掲しているが、見通しをもたせるための学習計画と毎時(必要な時)のメモ欄、そして単元末の振り返りを一覧できるようにしたものである。メモや振り返りの項目は、以下①②③に設定している。

- ① 言葉にこだわって考えたり書いたりしたのは、どのようなことか。
…今回は「いつもの時間に、いつもの声を」に指定して書かせることとなる。この表現に対する「ふさわしいか」欄への記述を、こだわって考えたこととして①に代える。
- ② 誰(何)が刺激となって、自分はどのように変容したか。
- ③ 継続させたい学習方法や成果。次回からの課題。

2 単元の指導目標

- ・ 熟考したり伝え合ったりすることを通し、言葉がもつ価値を認識しようとする態度を養う。
(関心・意欲・態度)
- ・ 読むことを通し、論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、自分の思いを広げたり深めたりすることができるようにする。
(読むこと)
- ・ 社会生活に必要な、語句や文の遣い方について理解と表現の幅を広げるようにする。
(言語についての知識・理解・技能)

3 単元の指導計画 (3 h 計画)

- ・ 教材A「いつもの時間に、いつもの声を」を提示、**わくわくするか** 欄を書かせる。
- ・ 記事全文を読ませ、感想などを生徒同士で対話させたり指導者とやり取りしたりする。 } (1 h)
- ・ 教材B「小さな街のラジオ発…」をCDで聴かせる。
- ・ 教材A「いつもの声をいつもの時に」は、ラジオの魅力を伝えるのに **ふさわしいか**、
教材Bから意見の根拠となる表現に注目させ (個) 話し合わせる (G)。 } (1 h)
- ・ 全体での発言・やり取りを経て、**ふさわしいか** 欄を書かせる。 } (1 h)
- ・ 「学びのプラン」に、本単元の振り返り②③を記させる。 } …本時

4 単元の評価規準

【現行の評価の観点による評価規準】

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
○言葉を感性的思考で分析すること、これを論理的な表現で伝えることの要領を、熟考や交流により掴もうとしている。	○文章中の語句の効果的な使い方について、感性的思考・論理的思考をはたらかせながら読んでいる。 ○人間、社会、自然などについて、より深みのある意見をもつようになっている。	○語句について、抽象的な概念を表したり多義的なものとなったりすることを理解している。

【新しい評価の観点による評価規準】

* 新学習指導要領の観点で示す。単元の指導目標から、今回は下記の規準で評価する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○論理的に説明・主張するため、適切な接続詞の選択をはじめ文と文との接続の仕方など、簡明に洗練された文の書き方を実践している。	(1) 提示された表現について、感性的思考をはたらかせながら読んでいる。(C読むこと) (2) 物事を正確に伝える文章中の文学的な意匠を施した表現について、評価しながら読んでいる。(C読むこと)	○言葉を巡る今回の成果や、そのために適していた学習方法などを振り返るとともに、今後に期することを掴もうとしている。

5 本時の学習計画 (3 / 3 時)

(1) 目標

「ふさわしいか」欄 並びに「学びのプラン」に、感性的思考・論理的思考をはたらかせた成果や経緯を記すことができる。

(2) 展開

	学習活動	指導上の留意点及び支援 (○) と評価 (◆)
つかむ・見通す	1 本時のめあてから、学習活動を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">「いつもの時間に、いつもの声を」は、ラジオの魅力を伝えるのにふさわしい表現か。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・通常の週末課題への取り組みと、変わらない活動であることを説明する。
考える・考え合う	2 前時で注目した表現、それを基に対話した内容をノートに下書きし、全体への発言に備える。 3-1 根拠を伴いながら「いつもの時間に、いつもの声を」はラジオの魅力を伝えるのにふさわしい、という立場で発言をする。 3-2 根拠を伴いながら、ラジオの魅力を伝えるのもっとふさわしい表現は他にもある、という立場で発言をする。 4 友人の発言を聞いて考えたことを含め、「いつもの時間に、いつもの声を」がラジオの魅力を伝えるのにふさわしいかどうかを「ふさわしいか」欄に清書する。 5 清書した意見を、全体に対し読み上げる。	<ul style="list-style-type: none"> ○毎週の週末課題において上々たる回答を書くが、日頃の授業では積極的に発言していない生徒を主に巡回し、自発的な準備を促す。 ○発言に抽象的な点があれば、やり取りにより、具体性をもたせるよう指導者が導く。 ○違った根拠や見方・考え方から、ふさわしい・そうではない、と判断した生徒はいないか。発言を求める。 <p>◆思考・判断・表現(2) ◆知識・技能 [それぞれ、「ふさわしいか」欄への線引による]</p> <p>◆これまで「学びのプラン」①では、こだわった言葉を生徒各自に選択させていたが、好きだった言葉・終末でも印象に残っている言葉という域を出ていないこともあった。今回、こだわる言葉を「いつもの時間に、いつもの声を」に指定することで、補強を図る。 5では、自発的な挙手発言から求め、次に変容させたい生徒をこちらから指名する。どちらの発言も大いに評価し今後につなげたい。</p>

振り返る	6 取り組みの対象を「学びのプラン」に移し、振り返り②③を記す。	◆主体的に学習に取り組む態度 [二種のプリントへの線引による]
------	----------------------------------	------------------------------------

6 本時の評価

わくわくするか・ふさわしいか プリントと「学びのプラン」プリントはこれまで、個別に評価してきた。前者で思考・判断・表現並びに知識・技能を、後者で主体的に学習に取り組む態度を評価している。今回は、別紙「学習の振り返りトライリスト」に挙げたように、二つを併せながら評価する方法を試みた。ふさわしいか にあらわれた成果を、二観点にわたり評価することとなる。

通常の 評価規準	◆思考・判断・表現 ◆知識・技能 わくわく…ふさわしい… プリント… 感性的思考・論理的思考をはたらかせて読んでいる。	◆主体的に学習に取り組む態度 「学びのプラン」振り返り①(今回こだわった言葉は何か)並びに、②③に学習の成果及び今後の課題を記している。
評価の方法 について	どちらも、記述を分析し色ペンによる線引を施している。具体的な表現に添って成果を可視化し示すことは、指導者と生徒で規準を共有するのに有効である。	
今回の試行 の詳細	<p>◆思考・判断・表現 → 紫の線 (2) 説明的な文章にある、文学的な意匠を施した表現について、意味や意義を想像・評価しながら読んでいる。(次項に詳述)</p> <p>◆知識・技能 → 緑の線 ○ 論理的に説明・主張するために、適切な接続詞の選択をはじめ文と文との接続の仕方など、簡明かつ洗練された文の書き方を実践している。(次項に詳述)</p> <p>…紫、緑 各々の線引の有無を記録。これらの長期的な蓄積を、観点別に評価している。</p> <p>…今回は、紫の線が引けていれば、 ◆主体的に学習に取り組む態度 のA候補とする。</p>	<p>◆主体的に学習に取り組む態度 → 通常も今回も、②③どちらかに橙の線があれば、B評価。 ② 試行錯誤や変容の契機となった「刺激」について記されている。 ③ 継続させたい成果や学習方法、次回からの課題が記されている。</p> <p style="text-align: center;">概ね満足 (B)</p> <hr/> <p style="text-align: center;">十分に満足 (A)</p> <p>◆主体的に学習に取り組む態度 通常は、振り返り①への線引に加え、②か③への線引が揃えばA評価。 → 今回は①をふさわしいか 欄への記述に代替する。 ②③の橙線とふさわしいか への紫の線が揃えばA評価とする。</p>
支める 努力、 生徒を 全徒を 体要は へはす のじす	<p>△ 各生徒のプリントに「なぜ? もっと詳しく!」等の助言を入れて返却する。</p> <p>△ 返却されたプリントを、各生徒が学習用 PC にて撮影。Google Classroom と Google drive によって写真の共有・閲覧を可能にし、随時の参考資料とする。</p>	

7 評価についての補足

わくわくするか・ふさわしいか プリントへの線引の規準を挙げる。

- 紫の線を引く規準… 一つには「お題」について、提示された時点や全文を読んだうえで、具体的なイメージつまり画像を想像し表現しているところ。
または、「お題」のみから受けた情緒的情動的なイメージを表現しているところ（例えば、楽しい・悲しい、明るい・暗い、ロマンティックな、勇気が出るような等の感情語が代表的なものとなる）や、全文を読んだうえで「お題」を覆い包むものを、改めて情緒的情動的なイメージに表現しているところ。

- 緑の線を引く規準… 自分の考えを筋道立てて表現するために有効な述べ方をしているところ。
具体的には「ふさわしいと思う。なぜなら…からだ。」といった基本的な述べ方も、できるようになっていれば線を引く。
体言止め・中止法・省略法など、意図的で効果的な表現技法が遣われたところにも。